

社会

さまざまな理由で親と暮らせない子どもたちに七五三の思い出を作ってもらおうという取り組みが、きょう(11/12)、和歌山市の美容室で行われ、髪をセットしてもらい、着物を着せてもらった子どもたちが千歳あめを手記念写真に収まっていた。



子どもたちに千歳飴を手渡す和歌山キワニスクラブのメンバー

これは、幼い子どもへの支援に取り組んでいる社会奉仕団体「和歌山キワニスクラブ」が行ったもので、今年で3回目です。

きょうの取り組みは、和歌山市六十谷の美容室「ヘアーアンジェリック」で行われ、和歌山市の児童養護施設「こぼと学園」の数え年で今年5歳の男子2人と7歳の女子2人のあわせて4人がおよそ2時間かけて髪型を整えてもらい、着物を着せてもらいました。



髪を整えてもらう女の子

子どもたちを引率したこぼと学園の保育士、小谷啓子(こたに・けいこ)さんは、「普段見られない、大人っぽい姿をみせてもらいました。子どもたちは、うれしいのと恥ずかしいのが入り混じった表情で、私たちもうれしかったです。この姿のまま、写真館で記念の写真を撮ってきます」と話していました。



着付けをしてもらう女の子

取り組みを行った「和歌山キワニスクラブ」の大岩徳茂(おおいわ・よしなり)会長は、「この美容室のオーナーが新たにキワニスの会員になったのを機に始めた取り組みですが、子どもたちの笑顔が見られるので、毎年、続けていきます。子どもの頃のいい思い出になってくれれば」と話し、来年以降も続けることにしています。